

主題：一以前から私たちを個人的に知り、導かれる主イエスー
目標：一主イエスに知られ、見出され、導いて下さるこの主を知り、信じて従う者になるー

2021/3/10
キリスト伝
初期における伝道①
ヨハネ1:28～51 p177

「初期の五人の弟子たち」

新約聖書には4つの福音書がある。その総称を共観福音書という。多くの人々がイエス・キリストの成された業を記録に残そうと文章に書いたが、その中で、史実に基づいて正確に記録され、神の靈感により書かれた福音書の四つが聖典として認められ、制定されたのである。

一つのを正確に表すためには、前面、横の側面、後の面、上部と角度を変えて見なければ分からない。主イエス・キリストという方を紹介し、伝える福音書もやはり四つ必要だった。

その中のヨハネの福音書は最初の弟子ヨハネの著作である。彼は弟子たちの中で一番長生きし、マタイ、マルコ、ルカが書いた福音書を読み、その上でもう一度福音書を書く必要を覚えた。

ヨハネしか知らない大切な出来事、主イエス・キリストの御姿、彼が目を見て、手で触り、声を聞き、主が親しく語られたみことばの数々を、後の人々に知らせるためであった。

ヨハネは彼の福音書に自分の名前を記していない。「もう一人の弟子」は著者ヨハネであることは明かであるが、彼は終わるまで名乗らない。しかし最後に名前ではなく「イエスに愛された弟子」(ヨハネ21:20)と記している。迫害の中を潜り抜けて来たヨハネはどのような思でこのように記したのだろうか。想像するとき、彼の主イエスに対する熱い想いが伝わってくる。そして復活し、今も生きておられる現実の主イエスが、生き生きと私たちにも語られるのを感じる。私たちも自分を「イエスに愛された弟子」と告白しよう。そしてそのように生きていきたい。

【聖書の学び】 (福音書=この通り信じたら救われる書)

I、荒野から、公生涯の準備に入られた主イエス (ヨハネ1:28～17)

1、主イエスの死海西岸に広がる荒野から、ガリラヤに帰られる途中の出来事。

①ベタニヤでバプテスマのヨハネは二人の弟子に、主イエスについて何と言いましたか。
(ヨハネ1:28～36)

②その師の言葉を聞いて、二人の弟子はどうしましたか。(ヨハネ1:37)

2、主イエスと二人の弟子との出会い (ヨハネ1:37)

①主イエスに付いてくるバプテスマのヨハネの二人の弟子は何を求めていたのでしょうか。

②主イエスと一緒に泊まった後に、アンデレは何が判ったのでしょうか。(ヨハネ1:40)

II、主イエスの5人の弟子たち (ヨハネ1:40) →この5人は全員ガリラヤ出身者

1、最初の二人の弟子は、誰でしょうか。(バプテスマのヨハネの証しを聞いて付いて行った二人)

① アンデレ=ガリラヤの漁師シモン・ペテロの弟
彼の特徴…主イエスと人との間を取り持つことができる賜物

* 彼が主イエスに紹介した人 = 兄シモン、5つのパンと二匹の魚を献げた少年、主イエスに会いに来たギリシャ人

②名乗らない弟子 = ガリラヤの漁師ゼベダイの子、ヤコブの弟ヨハネ

この弟子とは：・最後の晩餐において、主イエスの胸のところで横になっていた人物（ヨハネ13:23～25）

・主イエスの母を委ねられた人物（ヨハネ19:26～27）

・ガリラヤでペテロが復活の主に、将来を尋ねた人物（ヨハネ21:20,24）

2、ガリラヤ出身の他の弟子たち（ヨハネ1:40～）

③シモン・ペテロ = 弟アンデレに誘われ主イエスに会った時、主イエスからケファと言われた。

* 初対面で自分が知られていることに驚く。

→ ケファ(大岩)と言われ何と思ったのでしょうか { ・自分は大岩などではないと考えたか？
・このように言われるなら、この方はそうして下さるかもしれないと考えたか？

④ピリポ = 厳密に律法や預言を研究していたと思われる。彼の証し(ヨハネ1:45)

⑤ピリポの友人ナタナエル = 最初ピリポに、ナザレ出身はメシヤと違うと言ったが、心が変わった。

(イチジクの木の下でめい想していた自分が知られている)

(ヨハネ1:46～49、イザヤ9:1～2 旧p1180)

Ⅲ、5人の弟子たちの将来（ヨハネ1:50～51）

1、主イエスはどのようなことを通して、天国と地上を繋ぐ道を開かれたのでしょうか。

(ヨハネ1:51、14:6 p179)

* 主イエスはこのガリラヤを拠点に公生涯を始められたが、このときの弟子たちはまだ全時間の献身をしていない。

*** ディスカッション**（心を開いて話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。